(五日夕刊)
磐城新聞
休刊 大祭 第一 第三日曜
定價(壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢)
廣告料二行五十錢(指定廿錢增)
發行兼編輯印刷人 遠沼龍輔
發行所 福島縣平町田町拾六 磐城新聞社 電話五六四番

鑛税移讓になれば 收益は所在町村
當局の方針も確定し 町村長躍起運動

石城郡地方の炭礦所在町村が礦業税の地方委讓運動を續けてゐたがこの礦業税が礦務所の所在町村に委讓すべきかこれとも礦區の所在町村に委讓すべきかと云ふ疑問に逢着した事は既報の如くであるが仙臺礦山監督局に於いて審議の結果礦業税が委讓になれば礦務所の所在町村が全部の礦業税を徴收し其の町村から礦區の所在町村に礦區の割合に應じて分配するといふ事に決定を見た由で右各町村では此の面倒な疑問點も解決したので愈々今議會を通過する樣猛運動をなす事になつたが、この地方委讓が決定すれば石城郡内の各町村は唯一の財源を持つ事になると

小名濱港内の 浚砂作業
大掛りに着手

小名濱築港防波堤漁船附場は降雨並に潮流の關係から流砂甚だしく殊に昨年夏から秋にかけての大雲雨の際多量の砂が流れ込んだため非常に淺くなり大型漁船の如きは港内に入港出來ず港外に碇泊して小舟を以て魚の運搬をすると云ふ狀態にあるため昨年十年末頃から縣では浚渫機を据付け引續き浚砂作業を行つて來たが最近では潮流の關係から浚砂作業も一夜にして派砂のため埋める始末で容易に進捗しないため愈々經費三十萬圓を以て大掛な浚砂を行ふ事となりこの程大型浚渫機を据付け同作業に着手し、豫定通り作業が進めば今夜頃までには全部完成であると

內容を立て直して 磐炭更始一新
新重役も二名加へて 新活躍の陣容

磐城炭礦では先年來復活作業中であつた綴坑の排水事業が去月三日を以て埓下(坑底)までの排水を了し目下竪坑内修理中でこれが修理完成と共に四月より出炭を開始し得る見込充分で當分は一日二千噸の見込なるが坑内の整頓と共に年末までには殘に二萬噸を出炭の豫定であるといふ由來同坑は大正二年水汲當時磐

する見込みである

石城の木炭 高氣配
品質改善努力

磐三郡木炭は組合では目下需要季節にも拘はらず昨年十二月現在の製炭數は十六萬九千七百俵で前年の同月に比して二萬一千七百俵の減少を示してゐるが漸次炭價も高上し楢丸上一圓三十錢雜丸上一圓十錢、雜割上一圓五錢、雜並九十五錢、高値で一月に至り二十一萬九千四百七十俵に激增したが中央市場に於ける金融の逼迫から滿足に賣上金も取れず各製炭業者はいづれも嘆聲を洩らしてゐるが來る七月からは檢查員二名製炭指導員三名を增員し專ら木炭品質の改良に當る等

炭が五十萬圓を投じて三星炭礦より買收した廣袤百二十萬坪の礦區は炭質の良好なる點にたいて同社將來の營業上劃期的の好轉を齎すものと觀られ同社における操業の躍進振りを看取さるゝものあるのみならず來る十二日の株主總會において決定就任するものと觀られてゐる阪谷芳郎男爵及淺野良識の兩取締役は何れも金融關係の重役として增員されたものゝ如く彼此資金の充實を前提とした同社今後の擴張伸展は蓋し既定の事實として見るべきものがあ

思想善導の 青年講座
左記日割で開催

縣主催青年講座は思想善導の爲め近藤實業校養成所長吉田縣社會教育主事、風紀視學官等が講演する筈で男女青年團一般有志の聽講を希望するが講演日割は次の如くである

(十九日)四倉小學校
(二十日)小名濱小學校
(二十一日)上遠野小學校
(二十二日)小川小川校

養蠶同業總會
けふ元郡役所内に 豫算と役員選擧

石城養蠶同業組合總會は今五日午前十時から元石城郡役所内に開會し昨年度決算と本年度豫算七千三百三十三圓を附議し終つて次の各項を協議した

一、一時借入金承認の件は歳出に支障を來たした場合に限り一千圓以內に借入るゝ事
一、預金銀行は農工銀行平支店に指定する事
一、磐城片倉製絲工場よりの寄附金一千圓を採納する事

更に役員組合長一名、副組合長二名、評議員七名を改選しなほ組合費徴收方法は組合員六千三百十七圓一人平均二十二錢の割にて賦課し、新規事業として同組合技術員一名增員の件を附議し役員改選の結果は本稿〆切までには不明であつた

湯本商業組合
役員選擧を執行

湯本町商業組合の發會式は昨報の如く四日午後一時から湯本町佐野屋旅館に於いて開催したが役員は選擧の結果次の如く決定した

(組合長)石川德壽(顧問)井坂千代松、若松利惣次(副組合長)山崎武賴、小野福次郎(會計)比佐榮吉 高原萬喜多(幹事)後藤幸助、菅野福次郎、碇石富士男、渡邊虎雄、片寄金作、石川傳吉、田邊房吉、若松粂吉、大矢七六、奥山唯、山崎勝三、松田芳吉、大原誠壽、高荻庄七

海軍志願檢查
六、七日元郡衙で

石城郡内本年度海軍兵志願者の體格檢查は來る六、七日の兩日平町元郡役所に執行するが郡内の採用割當人員は八十六名で檢查執行官は藤崎機關中佐、瀬谷軍醫の兩氏である

入山通俗講演

石城郡湯本町入山炭礦では來る二十日入山小學校講堂に於て斯界の泰斗たる久留島武彦氏を招き通俗講演會を開催する筈である

明日の吉凶
舊暦 十二月二十七日
新暦 二月六日

民謡漫談(七)
抱夢生

大人の涙は多くの場合不純であるが若し一滴の尊い麗はしい涙を誘ふに足るものであつたならば形は如何に差異があらうとも生命ある音樂であり藝術であると思ふ。私は義太夫も好き尺八も好き琵琶も好き、常磐津も歌澤も清元も富元も聽く事に掛けては嫌いなものは一つもない、新内も好い長唄も皆面白いが先づ其の三味線を聽き其の文句を玩味し強いて作中の人物に精一つぱいの同情を寄せなければ何うして泣く事が出來ない。

元來是等の音曲は其の風俗を知らしめ又は時代を知らしむる歷史的目的の下に創作せられたものではない又殊更に勸善懲惡を主眼としたものでもない、止むなき人情美を歌つたものである。であるから偶歌詞に目出度い所があつて舞ふにしろ又其の振り付けが優美であつても決して歡樂的のものでもない、寧悲觀的のものであるから其れが演奏せられた時に奈邊かに物の哀れを感せしむる事が出來ずに聽者をして上調子ならしめたならば其れこそ音曲の冒瀆であり三味線の不列での音聲の羅孔に過ぎないと思ふ。

如何なる名曲であつても全曲悉く人情の機微に觸れんものでは無い、只一部分乃至一節に過ぎないのである、私はもつと短くもつと簡單にもつと早く我が胸底へ穿つものを好む。世間には嫁入道具の一として音曲を習はせる父兄があるが一と度嫁入した後は琴も三味線も袋に入つて何時彈かれる事も無い、夫も彈かせやうとはせず妻も彈くのを恥ぢるやうな家庭は誰も常に至る所で見掛けるのであるが一體何んの爲めに多くの歲月と黄金を費して刻苦精勵して覺えたのか分らぬ。ピアノもヴイオリンも皆左樣である、妻は夫に絶對に服從せざるべからざる日本家庭である、若し主人に其の趣味が無かつたら妻は技倆を示すの時は無い寶の持ち腐れだ、妻が嫌でも夫が好きな酒ならば酌もしなければならず、妻が音樂が好きでも夫が嫌いならばたくびにも出されない、況して激烈なる生活難の今日妻の音樂を聽いて悠々和樂を味ふ如き家庭は上流社會でなければ出來ない相談である。音樂に勘能なる慰音曲を秀でたる娘があつたとしても之を以て果して眞に自己娘め得るであらうか、音の麗しきを解して居ながら家して己が習得した音曲に絶對の愛着を有して居るだらうか。

▲一白 爲すこと捗らずも後の爲と思ひはげむべし ▲二黒 勞逸によつて運氣吉にも凶にも走り行く日 ▲三碧 活氣は充實あれども横道にも入り易し注意 ▲四緑 獨斷は誤りやすし目上に問ふてすれば凡て無事 ▲五黄 自ら身をかへりみ本分を守ればよき日となるべし ▲六白 居ながらに幸福の舞ひ來る日氣緩みするな ▲七赤 多少意にみたざるもありとも氣にせずはげめ ▲八白 氣短にあせれば成るべき事も破るゝに至る ▲九紫 虚榮の爲に徒勞し業務に怠りを生じ易し

講談 幕末 [illegible]
(152) 渡邊默禪作 宮野歌春畫

火花は岩崎山に切られた谷を涉り岩間をよち林を縫うての散兵戰、双方一騎打となつて殉死奮闘した。鬼梶原の驍の舞臺はいよ〳〵幕が引かれた、事なき時は女よりも優しく小兒よりも仇氣ない彼、銃音を聞き白刄の光を見ると忽ちにして獅子となり猛虎となり、デビルとなる。岩崎方面の戰爭で敵味方の眼をたどろかしたのは幕軍の野村隼人と土州の某とが山の中腹で組打をして谷底へ顚がり落ち、隼人がそれを刺止めたこと、幕軍の白石五六郎が大力を振りかざして敵の中へ斬つて入り瞬く中に五六人を斃したこと、官軍二番隊の小笠原謙吉といふ鐵砲の名人、今村利介と呼ぶ土州劍客二人を相手に斬結び勇ましい戰死を遂げたことである。

此時渡邊千秋の率ひた諏訪勢は側面から岩崎山へ押上つて幕軍を擧下りに狙擊する彈丸は雨霰忽ち十數名の手負が出來たので陣地を捨てゝ辛くも本隊に引揚げた、岩崎山を占領した官軍に山腹に臼砲を引揚げて柏尾山に陣地を布いてゐた幕軍の本隊を目蒐け、つるべかけて砲擊を加へた。勇は柏尾山の本陣に二門の大砲を据ゑ一門は南に向けて岩崎山の敵へ散彈を浴せかけ一門に西へ向けて、街道筋を進んで來る因州かへりう彈の雨を降らせ、その煙の下を潛つて鈍へ馴らした、拔刀隊が而も振らず斬つて入るべき策戰計劃であつた所が不熟練な砲手の悲しさ肝心の彈を反對に取違へて南に打つべき散彈を西へ、西へ打つべきりう彈を南へた見舞申すといふ滑稽を演じ殊に彈の火口も切らず、煙花にも揚げるやうな心得で盲打ちに切つて放したから一つとして爆發せぬ。味方は玉屋アと喝采する勇氣もなく呆れはてゝながめる不始末。

是が爲めに幕軍は不利の地に落ちてその苦戰は一通りではなかつた、敵は駈引巧みに狙擊をするに引かへ味方は浮足立つてくづれ勝ばたり〳〵とたほれるを、見た勇は無念の齒咬をして陣頭に躍り出た。

「土方、猪口才な敵だ、殷ら是非がないわ、勝敗を一擧に決さうではないか」

その眼は炎

「可からう、突擊ちやッ?」

側の土方才三が答へた

勇は回顧つた

「梶原は何處に居るか」

「たい、梶原?」

大音に呼ぶ聲の下から

「たう?」

「隊長、何だい」

「何だいではない、貴公先刻來何をしてゐたか」

勇は不機嫌である

「私か兵糧を食つて寢てゐた」と梅は平氣

「仕樣のない男ちや、此のさなかに……見ろ、味方は大苦戰ちや悠々緩々として居られては困るでないか」

「だつて、腹が空つては戰が出來ねね昔からチャンと相場が定つてらア、日は永ね、ゆつくり戰るさ」

勇はなつとして口をつぐんだ、土方は笑つて

「たい、梶原、此處が關が原だ、確乎やつて呉れ玉へ貴公が働いて呉れんでは戰に勝てないよ」

流石に如才がない

「そうかなア」梅は空を嘯いた

「アヨッと承はり申しやす

「アハ、何だ、あらたまつて」

「お前さん方は今まで何人た斬りなすつた」

「何人もありはしない、是からだ」

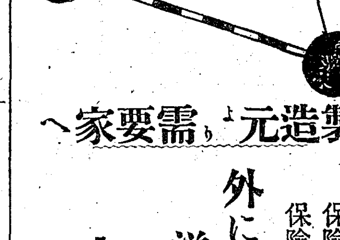
痔の最高內服藥 ダイサン錠
鼻のクスリ チクノール錠
平町五丁目角 山野邊藥局

廣告
吉田眼科醫院

掉尾の大奉仕
二月一日(舊廿二日)ヨリ五日間
歳暮福引大賣出し
御仕着と御歳暮の御用は是非三井へ
御祝儀物御仕度品は豊富取揃へであります
格安反物大見切物(三割安より半額)
吉凶御引物は特に廉賣奉仕致します
御贈答ニハ三井ノ商品券を
御買上金 五圓毎ニ一福引券呈上
ショール新柄金一圓五十錢ヨリ
足袋特賣(白キャラコ 十五錢 黒朱子 廿五錢 絹天女物 二十錢)
主婦の友三秀會特選 新柄帶側陳列 新館二階
磐城平 三井呉服店 電話三八 七五一番
福引景品 特等 桐タンス 一等 高貴織 二等 新銘仙 三等 フトン縞 四等 羽織紐 五等 名入手拭 空籤ナシ

聯合福引大賣出し
景品山の如し
舊十二月廿五日より廿九日まで
新二月四日より八日まで
五日間
二丁目

變つた賣り出し
景品なしの原價提供
二月一日より十日まで
保險付 掛時計 三圓五〇錢
保險付 目覺時計 一圓九〇錢
外に腕時計と洋品各種大投賣



製造元より需要家へ
大谷時計病院
平三 電一一九番

外科 婦人科 內科 X光線科
外科一般 耳鼻科 花柳科
婦人科 產科
赤心堂病院
平町田町(電四七五)

特賣!!
たひら正宗 福島縣清酒品評會一等賞受領
花春 同 優等賞受領
醬油釀造元
鹽屋 山崎合名會社
電話一〇番

平町の大通りに不体裁な貸家札
春立つて之れから活況 商業の準備時代

平町は赤伽井嶽颪しに責められた冬ごもりの節もあけ初めて來たから市況も日を追ふて活氣を添へることにならうが何分舊臘來の一般不振で商店街にも少なからずとどがいり大きい店舗の貸家札で不体裁の姿を呈してゐる有様だ市内にたける空家の多いことは既報の通りであるが住宅地の方は文化住宅地の開設といつた大勢に追はれて在來屋敷と稱すべき地區には空家の生ずるのは當然だけれど中央大通りの商店街に貸家札の貼附されるとの多いのは如何にも不景氣の産物らしくて面白からざる感じを與へるのである何れ陽春の立に伴ふて商工業者の氣分も引立ち從つて店舗の施設も加はることであらうからやがては大通りの貸家札がはぎ取られ商店街としての聲容となるであらうからいはど目下は一つの過渡期に属し從つて當業者連の準備時代といふわけなのである

金屬專門
磐炭の榮捕はる

伊達郡白根村生れ當時内郷村大字白水磐城炭礦坑夫大槻榮(三七)は去月十日午後十時頃同炭礦綴豎坑北部に据付てあつた蒸氣衛資金製メタル二個を窃取したのを手始めに前後十數回に亘り機械に取付てある資金製附屬品を窃取して自宅内に陰匿して置き數日前古物商氏名不詳に資金三貫二百匁を十數圓にて賣却した事發覺昨四日平署猪狩刑事の爲めに逮捕餘罪ある見込で目下嚴重な取調を受けてゐる

菊田專習學校に商業科を特設
關係町村長相會し 入學志望者激增

石城郡植田町菊多實業專習學校は郡南唯一の中等學校として實績を收め毎年多數の入學志望者を増卒せしめてゐるが同校は植田町、錦、山田の一町二ケ村の組合組織にして高等小學校卒業生(地方適切なる中等教育、實業教育を施し實務的の人物を養成するの目的にして今年新學期より更らに商業科を加へ將來諸會社、銀行商店等に就職するものをも養成する事となつたが同校では新學期を前にして去る二日植田町助役小野忠衞、錦村長金成通、山田村長安島重三郎の諸氏その他會同協議の上新入生募集について打合の上關係町村小學校卒業者保護者に入學に資便する詳細な案内狀を發した

錦村信用組合計劃
紀元節に創立

石城郡錦村では過般の御大典の記念として役場が中心となり同村を網羅した販賣利用を兼た信用組合を組織すべく村議區長實行組合長青年團幹部等共力して加入者募集中なるが深刻な農村不指に豫定の進行を見ず各員大努力の結果此程漸く七百口(一口卅圓)の豫定中六百七十口二百廿六人の加入を見るに至つたので二月十一日の紀元節をトし創立總會を開く事となつた尚最初の間は準備その他の都合で販賣購買を主眼とせず專ら肥料資金として低利に貸付組合員の使宜を圖り漸次擴大し將來は農業倉庫をも設置する計劃であると

扨て第一に火の始末
應募八百八十に達した 磐炭の防火標語

石城郡内郷村磐城炭礦々業所では從業員一般に豫しから「防火宣傳標語」を懸賞募集中であつたが應募數は内郷七百六十六句、小野田百十六句計八百八十二句の豫想外の多數に達し內郷消防部及小野田消防隊の幹部を審査員として愼重嚴正なる採點の結果

(一等)扨て第一に火の始末、高坂坑小使長谷部忠雄(二等)用心眠れば火は起る、町田運轉係工作夫藤田安政 火除け魔よけの札貼るよりも心に注意の二字を貼れ、湯本運輸軌道修繕工海野力雄(三等)九十九人は注意をしても一人油斷で火事となる、高坂坑運輸夫菊地榮基 氣の付く處火が付かず、町田運轉係工作夫角張繁 火の用心出る時寢る時稼ぐ時、町田坑採炭夫溝井吉三(四等)ポンプに優る火の用心、高坂運轉係機械夫星野秋次郎 汗を力で造つた家も一寸の油斷で灰にする、町田坑雜婦館岡キクヱ 一に煙突二にコタツ三にカマドの火の用心、高坂坑運搬夫吉田德太郎 大きな火事は小さな油斷から町田坑採炭婦森川すみ 消したと安心今一目町田坑運搬夫酒井四郎 焚く時よりも後始末、町田坑雜夫今野貞二 注意不斷火事油斷、勞務課事務見習佐久間仁郎 用心は家や寶の燒けぬ內こ 高坂坑採炭夫村上新夫 火は不始末を見て歩く、小野田坑運搬夫酒井豊治 注意のポンプにや水不用町田運轉係雜夫鈴木康之丞 以下佳作(二十八)略

說教强盜の正体(下)
山田司海

說教强盜の正體はその犯罪經路より察するも、いはゆる玄人で、再犯、三犯以上の手腕の者と考へられる。たゞズルイと思はれん點は、相手の弱點をつかんで現金を奪ふ以外傷害をせぬ點である。ある人の說では被害者の某夫人に暴行したといふ噂もあるが、說教强盜ともいはれる怪賊かそれ程野暮な眞似はすまい。何しろ警視廳數千の警官を翻弄してゐるのだから驚嘆に値する。

近來の大怪盜であるかれに一片の氣骨があるならば「天網恢々疏にして漏らさず」どうせいつかは捕はる。この際貧乏人に懸賞金でもつかませてやらうかと大きく哀れな同伴者でも共筋へ自首して出れば見上げたものである。

然るに、この怪盜が更に惡地を張つて犯行を重ねればいつかは人を傷害する事になる。その結果は「强盜人を傷したる時は無期または七年以上の懲役に處す。死に致したる時は死刑又は無期懲役に處す」—刑法第二百四十條—といふ審判を受けねばならぬ。いま改心してかれが自首して出れば單に有名となるのみか又再生の途も開かれるといふものである。

强盜を續けるが如きは明かに自殺的行爲であつてかれ自身の不孝を增大して行くやうなものである。

四、犯罪の豫防

人情から申せば、この際强盜の如き社會共同の敵にはよろしく社會的制裁を强大にせよ。また法律的制裁を最大に科せよ。と叫びたい。然しまたかれを精神的不具者無智なる惡人として見るときに於ては一種の同情もまた起る。

說教强盜が、もし反省して改悟せざれば市民協力して、之を捕縛し法律の力によつて處罰すべきは當然であるが、一方相當大問題である。それは今日まで檢擧された强窃盜犯を見るに多くは前科をもつ者である故に免囚保護事業の如きをも少し徹底させ、かれ等を親切に導いてやり先づ第一に出獄者に再び犯罪行爲を敢てせしめぬやうにする事、また自己の血族友人等に犯罪的素質を有する者ある時は特別に注意し親切に其の生活方針を與へる事。若くば失業者の救濟、或は浮浪人の身許調査等を完全にすれば今日に於ける犯罪をより少くする事が必ず出來るであらう。

更に惡を肯定する思想を排除するところの、道徳の振興正しき宗教の保護活用を試むれば社會の不安も自然に除かれるやうにならう

斯て所感の一端を述べて一般の高教を仰ぐ次第である

湯本の行政訴訟と實質的に同樣
當分は何れとも決定せぬ 平町の地下採掘

平町の地下採掘問題に關し所轄仙臺鑛山監督局より池知技師が出張して實地に亘つて調査の上歸仙した旨既報したが同問題は目下行政訴訟中にある即ち湯本町の地下採掘問題と實質的に關係があり從つて湯本の訴訟が原告の敗訴に歸すれば平町の出願にも勢ひ不利なる影響を及ぼす譯であつて結局同問題の歸結は湯本の訴訟決定後何れとも裁定されるものゝ如く切り離して平町分のみのを決定する如き事は無いものと觀られてゐる

極上は强いが 鰹節低落
三陸並物續落

鰹節は新春において多少好氣を見せたけれどもその後は大体において金融不圓滑に基因するも市中といはず地方といはず賣れ行きがだんだん細つてゆくためいやが上にも人氣が軟勢を餘儀なくされ殊に極上品は品質が優秀なるためと在荷も稀薄となつてゐるので依然强硬の成行きを續けて居るが昨今入荷せる大島節と沖繩節の大節上品は品質が低下して極上品との懸隔が擴大してしまつた爲め右の大節は五圓方の低落を告げた三陸節の並品も品質が劣等のため人氣惡しく賣れ行きの不振に伴ひもデリ安歩調を續け前報に比して二、三圓方の安値を示してゐる

愈々けふから春
三十年來の寒さだつた 石城地方の寒中

石城郡地方の昨四日は冬から春への分れ日で大小寒三十日も愈々明けてもう春の陽に惠まれることになつたわけである、田畑を耕し人々の命の糧を作る農家の人達は此の節分の日をその年の作を占ふよい日と定め豆まきの豆の焦やうで作柄を豫想すると言はれて居るが是と同じく寒中の御天氣の次第でその年の豊凶が判ると言ふことも何百年かの長い經驗からはつきりした豫想のもとに傳へられて居る

そこで測候所について今年の寒三十日間の氣象狀態から見た今年の作柄事態は先づ毎年の極寒である、今年の一月中の平均溫度は零下〇、五七度で前年の〇、九七度に比較して〇、四一度低い更に毎日の最高平均溫度も三、八七度で前年の六、二八度から見て二、四一度低く最低の平均溫度も零下四五で前年の零下三、一五度より一、三五度寒かつた

これ等の平均溫度を以て明治三十三年以來の平均溫度に較べて見ると例年最高平均四、七九本年最高三、八七で今年は〇八二低い最低平均も例年零下三、六三、本年零下四、五で〇、八五寒く平均溫度も例年〇、五本年零下〇、五七で一度餘低いつまり本年は最高最低平均から見て何れも前年よりも明治三十三年以來の平均よりもなほ寒かつた譯である

更に本年一月中の雨量(降雪量も含む)も坪當り五〇、八ミリ(六斗八升九合一一)で昨年の四八、六ミリ(六斗六升五合八二)から見て二、二ミリ(二升三合二九)多いこの狀態から考へると昨日の節分だけると本年の農作柄の占ひは豐年萬作疑ひなしと言ふことになるわけである

右に就て測候所では語る

冬季に於ける降雪量が多ければ夏季の降雨が尠ない様である、冬の氣候が寒く雪量が多ければ豊年であると云ふ說は永い間の經驗からの言葉と思ひますから信じたいと考へる

入山娯樂場
從業員ら大喜び

石城郡湯本町入山炭礦では同町八仙にある鑛業事務所を同坑第五坑附近の廣場に新築移轉し舊事務所を從業員の娯樂場とする計畫で總工費三萬餘圓を投じ新事務所の建築に着手したがこの突然の事務所移轉の事情は晝夜の別なく一日數百人の從業員が働いてゐる第五坑と事務所とがあまりに離れてゐるため指揮監督乃至は執務上に不便を感じてゐるためだといふなほ移轉派の娛樂場設立については從業員側から非常によろこばれてゐる

舊正二日の初荷
酒は平常より二割增 不動の平驛貨物

平驛に於ける舊歲晩に入つてからの貨物動態は發送到着共に依然として活況を見せず僅に酒類の着荷が平月に比して二割の增加を示してゐる程度の異動で其の他木材、石炭、穀類等の主要貨物は各れも減少してゐる狀態である此れに就いて係員は

例年此の季節には貨物の動が少いのですが今年のやうな事は稀でせう不景氣の影響に依るのは勿論でせうが然し舊正月でも過ぎれば片倉磐城製絲工場の工事着手や操業開始等に依つて幾分の活況を見せるものと想はれます云々

語つてゐたが不況とは言へ舊二日の初荷には相當の出荷あるものと觀て目下準備を進めてゐる

勿來の舊歲
不況の色濃厚

勿來町商業組合は例年通り舊廿五日より卅日まで六日間聯合福引大賣出しを行ふが炭礦の關係もあるだけ著しく閑散振りが目立ち昨年より各商品共低下し殊に呉服太物類洋品類等約六七掛位の安價であるが各商店共不況を見越して新仕入を手控へてをり地方人、雇人等の定期仕着を日用品を除き一般に控へ目の狀態で物さびしい空氣が漂つてゐる

卓球の雄を集めて 濱三郡選手權大會
來る三月三日平町に 優勝者は神宮へ

石城郡地方に於ける近年室內スポーツたる卓球、撞球等の普及振りは物凄い程で殊に卓球は昨年平卓球協會が設立されて以來長足の進歩を遂げ去る三日平町に開かれた全縣下卓球大會に於いては本縣下最强を誇る福島百七銀行の大佛クラブを破つた等は如實に當地方卓球界の發展を證據立るもので此の進展に鑑みた平卓球協會では全國的に飛躍すべく遂に今年度から檜舞臺明治神宮大會に代表選手を送る事と決定したが代表選手選拔のため來る三月三日午前八時平町に濱三郡卓球選手權第一回大會を擧行することなつたが會場は常磐銀行平支店(A)平稅務署(B)で參加資格は濱三郡(石城、双葉、相馬)現在居住者にして申込期日三十日まで平町大塚運動具店內平卓きゆう協會宛其の他ルールは神宮競技の規定に準ずる事とし優勝者には濱三郡選手權を附與し全國大會に代表出場せしめる筈である

三井の賣出し
最終日の當選者

平町三丁目三井呉服店の舊年末福引景品付大賣出しは一日より非常な人氣を呼び今五日最終日までの當籤者は次の如くである

(特等)ダンス江名濱高木キク(一等)高貴織入山宮本末好(同)城山田村庄五郎(同)鷹匠町太田トヨ(二等)新銘仙高久村藁谷マサ(同)草野村鈴木康之(同)湯本町宮本政三(同)四丁目渡邊米店(同)二丁目三井四郎(同)中ノ作吉田久四郎

かみくづ

◆藝者にも試驗制度が出來てパスしないものは行司ト加入ができない事になつたらさぞ面白かろう◆サテ困つたのは試驗官、選定で現役藝者はオミツトで殆ど置屋や料理屋の女將の撥ダコのある連中として似是ぬ以て不公平は請合と來てる師匠連も大金を出した抱へ主に遠慮といふものがある是れでは試驗の嚴正を保しないから、イツソ警察の方へた願ひしようかとの名論も出たが、生憎警察にも踊りや三味線の技術官がゐないといふので折角試驗制度の名案も路頭に迷つてゐたは、棄てられた迷兒ぢやあるまいし◆好い事を教へよう、是れは客の內から試驗官を推選するに限るよ吾輩の試驗官なら菓子折位ぢや動かないぜ、ナニあんたなら秋波のラヂオでグニヤ〳〵だらうつて、なるほどそうなると憚りながら自信はないね。

安全第一

諸債券、公債ノ御用ハ迅速簡易ヲモツトートスル弊店ヲ精ニ御利用クダサイ

營業課目
勸業債券
復興債券
公債其他
爲替
金融
質物一般
取扱

多田井商店
平町大工町

百人一首一室一句

これやこの
老へも若かきも 正札堂
よらぬ者なし 買はぬ者なし
俺が服見よ、自慢ぢやないが
かわぬ者ない(誰も好いくる) 正札堂
アラ〳〵
物は試めしよ、 正札堂へ
來てよ見さんせい服がへに アラ〳〵
薄利多賣はこの店の主義
不景氣なかせの福の神
アラ 福の神

年末年始の御贈答品は是非
瓶詰
へ御用命下さい
永山酒造店小賣部
平町四丁目(平驛通り)
電話二〇七番

平壹丁目聯合
福引景品付大賣出し

期間 二月一日(舊十二月廿二日)ヨリ二月七日(舊十二月廿八日)マデ七日間
御買上金壹圓毎に福引券壹枚進呈
(即賣は五圓毎に壹枚)

景品目錄
特等 自轉車 貳臺
壹等 上等重桐箪笥 拾本
貳等 番外最上白米四斗入 貳俵
上等座布團五枚組 五、六本
置時計
大盥引、セト大火鉢
參等 手提金庫 百本
以下六等まで景品山の如し

◎躍進！
新發賣の品質優秀なる
イワキ石鹸
半打入 五拾錢
一月三十一日より向ふ一週間は聯合賣出中に付二箱に對し福引券を差上げます
四丁目
ツルヤ商店
電話百四十番